

J A トップ層に求められるもの

三重大学名誉教授・招へい教授

石田 正昭

1 総会・総代会シーズンを迎えている。トップ層
2 が交替した J A も多いかと思う。「地域に根ざし、
3 地域社会に責任をもつ協同組合」の一員として J
4 A がその責務を果たすうえで、トップ層にどのよ
5 うな人材を得るかはきわめて重要である。

6 事業体であるから、コンプライアンス経営を徹
7 底し、健全経営を実現していくことがまずもって
8 重要である。しかし、それだけで協同組合に与え
9 られた責務を果たしたことにはならない。協同組
10 合は協同組合として果たすべき独自の責務がある。
11 それが上述の「地域に根ざし、地域社会に責任を
12 もつ協同組合」というフレーズである。

13 この責務は、協同組合が銀行、保険会社、商社
14 など、資本制企業とは一線を隔す組織であること
15 を言い表している。

16 人びとの財やサービスへの欲求を満たすうえで、
17 市場経済は決して否定されるべきものではない。
18 市場経済における効率性の追求は、人びとに多く
19 の恩恵を与えているからである。しかし、それを
20 放置しておくと、しばしば弱肉強食の法則が支配
21 し、失業の拡大や貧富の差の拡大などがもたらさ
22 れるという弊害もある。

23 こうした弊害を除去するために、国家（政府）
24 が介入し、人びとの^{しあわせ}幸福づくりを保障する必要が
25 生じる。この幸福づくりの保障が「政府の公」で

26 あるが、この「政府の公」では、しばしば権力の
27 集中や形式主義など、官僚主義に流れる性向があ
28 って完全な解決には至らない。

29 国家（政府）がもつそうした欠陥をケアする、
30 あるいは補う役割を果たすのが、^{シチズン}市民なり個人一
31 人一人が行う幸福づくりの提供である。これを「民
32 の公共」と呼ぶが、この「民の公共」では、人び
33 とのもつ「潜在能力」や「生き方の幅」を狭める
34 ような社会の貧困を除去することが責務とされて
35 いる。

36 言い換えれば、「政府の公」と「民の公共」は、
37 両者相補いながら、市場経済の欠陥を補正してい
38 くことが人びとの幸福づくりに役立つと考えられ
39 ているのである。

40 この「民の公共」を提供するのが協同組合なり
41 NPOなどの非営利組織である。そして、その「民
42 の公共」を担う人びとが市民である。ここで、市
43 民とは「地域社会に責任をもつことを自らの責務
44 と考え、かつそのことを自らの誇りとするような
45 人びと」のことを指している。

46 言うならば、社会変革の担い手が市民なのであ
47 る。この種の市民たちをどれほど哺育・育成する
48 ことができるか、あるいはそういう市民の中から
49 真のリーダーを生み出すことができるかが、協同
50 組合なりNPOの課題とってよい。

51 JAトップは、実務精通家で、コンプライアンス
52 経営、健全経営を実現できる人であれば、誰で
53 もいいという訳ではない。そういう実務精通家だ
54 けではなく、JAを人びとの幸福づくりの場、す
55 なわち社会変革の場ととらえる社会的企業家もま

56 た必要なのである。 (いしだ まさあき)

57

58